

泉州南消防組合地球温暖化対策実行計画における実施状況報告 (令和7年度分)

1. 計画の概要

令和3年10月、現況に応じて削減目標及び基準値を修正し、「泉州南消防組合地球温暖化対策実行計画」を「Ver.2」として改訂しました。

本計画では、当消防組合が使用する各種エネルギーの使用量から算定される温室効果ガス排出量(CO₂換算)について、令和12(2030)年度までに、基準値(令和元年度)と比較して16.8%削減することを目標としています。

2. 令和7年度のエネルギー使用量及び温室効果ガス排出量(CO₂換算)

下記のとおり、令和7年度の温室効果ガス排出量(CO₂換算・全資源対象)は846.5tであり、基準値(712.9t)を18.7%(133.6t)上回り、令和6年度の値(781.8t)に対しても8.3%(64.7t)の増加となりました。

なお、削減対象の温室効果ガス排出量(CO₂換算)は533.7tであり、基準値(431.0t)を23.8%(102.7t)上回ったほか、令和6年度(504.3t)に比べても5.8%(29.4t)増加する結果となりました。

| | 電気 | LPG | 都市ガス | ガソリン | 軽油 | 灯油 | 合計 | 割合 | 削減対象合計 | 基準値 | 削減対象合計 対基準比 |
|--------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|----------------|
| 泉佐野消防署 | 208.8t | | 31.5t | 31.9t | 24.8t | | 297.0t | 35.1% | 240.3t | 181.2t | 132.6% |
| 泉南消防署 | 39.9t | 0.3t | | 29.1t | 8.8t | 2.5t | 80.6t | 9.5% | 42.7t | 36.0t | 118.6% |
| 阪南消防署 | 54.6t | | 3.3t | 18.8t | 28.7t | | 105.4t | 12.5% | 57.9t | 37.2t | 155.6% |
| 熊取消防署 | 31.2t | 2.2t | | 26.4t | 8.6t | | 68.4t | 8.1% | 33.4t | 27.1t | 123.2% |
| 岬消防署 | 42.2t | 3.4t | | 16.3t | 6.0t | | 67.9t | 8.0% | 45.6t | 47.7t | 95.6% |
| 日根野分署 | 12.8t | | | 17.0t | 6.6t | | 36.4t | 4.3% | 12.8t | 8.9t | 143.8% |
| 北分署 | 30.8t | 1.6t | | 21.5t | 3.1t | | 57.0t | 6.7% | 32.4t | 39.3t | 82.4% |
| 本部田尻庁舎 | 12.0t | | 0.5t | 20.6t | | | 33.1t | 3.9% | 12.5t | 9.8t | 127.6% |
| 上瓦屋分署 | 12.3t | 1.2t | | 17.2t | 3.7t | | 34.4t | 4.1% | 13.5t | 11.7t | 115.4% |
| 空港出張所 | 31.3t | | 0.9t | 6.2t | 3.1t | | 41.5t | 4.9% | 32.2t | 24.3t | 132.5% |
| 砂川出張所 | 9.2t | 1.2t | | 12.8t | 1.6t | | 24.8t | 2.9% | 10.4t | 7.8t | 133.3% |
| 合計 | 485.1t | 9.9t | 36.2t | 217.8t | 95.0t | 2.5t | 846.5t | 100.0% | 533.7t | 431.0t | 123.8% |
| 割合 | 57.3% | 1.2% | 4.3% | 25.7% | 11.2% | 0.3% | 100.0% | | | | |
| 基準値 | 380.4t | 14.4t | 33.6t | 213.7t | 68.2t | 2.6t | 712.9t | | | | |
| 対基準比 | 127.5% | 68.8% | 107.7% | 101.9% | 139.3% | 96.2% | 118.7% | | | | |

※実行計画 5. (2)に基づき、ガソリン及び軽油については削減対象外としている。

3. 考察

令和7年度の温室効果ガス排出量（846.5t）は、前述のとおり基準値（712.9t）を約19%上回り、令和6年度（781.8t）に対しても約8%の増加となりました。排出量の大半（約83%）は電気及びガソリンの使用量が占めており、これらの増減による影響が極めて大きい状況です。特に電気使用量は全体の約57%を占めています。

増加の主な要因としては、消防本部・泉佐野消防署庁舎の大規模改修工事に伴う事務所移設等の影響により、同署の削減対象排出量が前年度から37.1t増加したことが挙げられます。また、前年度と同様に、近年の猛暑に伴う空調設備の使用頻度増加も影響したものと推察されます。

4. 課題

令和7年度の値は、前年度より増加し目標値から遠ざかる結果となりました。しかし、これは消防本部・泉佐野消防署庁舎の大規模改修工事や気候変動といった外因的要因による影響が多であったと考えられます。本計画8頁の「5. 温室効果ガスの削減について（3）削減目標達成のための取組み」に記載の事項については、日頃から職員一人一人が削減に努めているところであり、今後はどのように排出量を下降傾向へと転じさせ、それを継続していくかが大きな課題となります。

5. 今後の取組み

上記の課題を解決するため、空調設備等の適切な運用をはじめ、照明器具のLED化やエネルギー使用量の「見える化」による情報共有、各種事業の改善などを進めてまいります。今後も職員が一丸となって温室効果ガス排出量の削減に努め、地球温暖化対策に積極的に取り組んでまいります。